令和５年度　学校経営計画に対する自己評価計画最終評価報告書

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
1　生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	①進路選択に係る講話や体験活動等をとおして、キャリア意識の向上を促す。	【成果指標】 生徒各自が目標を達成できた。 アドバンスクラス 模試偏差値	模試における英数国合計の偏差値が55以上の生徒が受験者の A　50%以上 B　40%以上 C　30%以上 D　30%未満	アドバンス 〔11月模試〕 １年 ４／12 C （ 33 %） ２年 ３／13 D （ 23 %）	成　果：震災により１月模試が実施できなかったため、11月模試のデータによる評価となった。判定は７月模試と変わっていない。 課　題：11月の結果は７月の状況を維持している。朝学習においては新たな教材を導入するなど改善をして実施しており、進路意識を向上させるために10月中旬には１・２年生対象の体験授業を実施するなどした。今回の震災により、生徒の学習環境は激変しており、今後どのようにフォローしていくかが課題である。 改善策：現在１・２年生を対象にリモートも含めた授業を、穴水中学校を会場に実施できているが、生徒が落ち着いて学習に取り組めるような環境の整備が急務である。校舎や通学路の復旧、ライフラインや通学のための交通網の再開をまず期待したい。
		ベーシッククラス 漢字検定	漢字検定準二級保持者の割合が A　50%以上 B　40%以上 C　30%以上 D　30%未満	ベーシック 全学年 D （ 22 %） ２・３年 C （ 33 %）	成　果：準２級以上保持者が41名中９名となった。合格に向けて主体的に学習する生徒が増え、２年生においては継続した漢検学習が行えている。 課　題：漢検対策の取組については、授業時間や朝学習時間を当てることで改善できた。しかし15名の２級以上受験予定者がいる第３回検定前の震災により、積み上げてきた努力を発揮できず、また方向性の検証ができなかった。 改善策：ベーシッククラス全体で「資格取得」の計画を来年度最初の検定にしぼり、ポイントをおさえて課題に取り組む。また検定受検の目的や目標を明確化して学習意欲の向上を図る。
		キャリアコース 商業検定	商業各種検定合格率が A　75%以上 B　65%以上 C　55%以上 D　55%未満	キャリア A （ 81.5%）	成　果：商業に関する検定合格率は81.5%となりＡ評価となった。個別に目標設定した受験級に対して粘り強く取り組んだ。（※１月以降の上級試験は未受験である。） 課　題：新教育課程における検定の位置づけや、検定を活かした進路選択など、検定取得が何のために必要かを考えていく必要がある。 改善策：実学的な視点から、積極的な検定取得と自らの目標設定や進路選択を考えさせた授業を心掛け、個別指導を充実させながら対応していきたい。

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
1 生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	②習熟度(類型)別の授業・補習や学習課題等をとおして、自ら学ぶ意欲を高める。	【成果指標】 各クラスの１日の学習平均時間（各定期考査までの期間）が アドバンスクラス ２時間以上 ベーシッククラス １時間30分以上 キャリアコース １時間30分以上	各クラス(コース)において基準を達成した生徒の割合が Ａ　70%以上 Ｂ　60%以上 Ｃ　50%以上 Ｄ　50%未満	アドバンス D （31.4%） ベーシック D （36.6%） キャリア D （22.7%）	成　果：前期と比較して、定期的に入力する生徒の割合が増えている。それに伴い、生徒の学習環境が落ち着いてきている。また、例年と異なりベーシッククラスの学習時間が多い。 課　題：全体的に目標達成率は低い。特にアドバンスクラスの学習時間が減少している。クラスの特性上、応用力育成を図るためにも、学習時間の確保が課題である。 改善策：クラスごとに適切な課題を与えることが大切である。また、教師側が短期的・中長期的目標を示すことで，学びの意義を考えさせる工夫が必要である。
	③教育ＩＣＴ環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、確かな学力を養成する。	【努力指標】 ＩＣＴ研修によってＩＣＴ機器に習熟し、「ＧＩＧＡスクール構想」に適った「新たな授業づくり」に積極的に取り組んだ。	ＩＣＴ機器に習熟し、「ＧＩＧＡスクール構想」に適った授業づくりに積極的に取り組んだ教員の割合が Ａ　80%以上 Ｂ　70%以上 Ｃ　60%以上 Ｄ　60%未満	A （100%） Ａ　60.0% Ｂ　40.0%	成　果：Ｂの割合について中間評価は56.3%であったが、最終評価は40.0%となり、Ｂの割合が減ってＡの割合が増加した。一人一台端末を活用した授業づくりが定着しつつある。 課　題：Ａ＋Ｂの割合は100%ではあるものの、依然としてＢの割合が４割となっており、一人一台端末の活用に苦慮している教職員も少なからずいる。 改善策：一人一台端末を活用した授業づくりにおいて、若プロや互見授業との連携を図り、教員全体における浸透を図る。
学校関係者評価委員会の評価		・学習時間が増加しないことへの改善策を考え、学年が上がるに比例して学習時間が増加するようにしてほしい。 ・生徒が希望する将来の職業にはどのような知識があれば有利か、アドバイスをして授業への意欲につなげてほしい。 ・ＩＣＴ機器活用については、教員全体で連携して進めていくことにより学習成果を上げてほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策		・学びの意欲がさらに向上するような仕掛けや取組を具体的に実践する。 ・ＩＣＴ機器の利活用や生徒一人一台端末の取組については、引き続き学習成果が上がるように教員全体で取り組んでいく。 ・ＩＣＴ機器の良い面だけではなく、不適切な発信により生じる他者への影響についても配慮できるよう指導していく。			

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
2 規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。	①学校内外の日常生活の場面で、ＴＰＯを前提とした判断と言動ができるよう支援する。	【満足度指標】 規範意識を持って、自発的に行動することができたと考えている。	自分から主体的にＴＰＯに応じた挨拶ができているか Ａ　よく出来ている Ｂ　出来ている Ｃ　あまり出来ていない Ｄ　出来ていない	89.3 % （Ａ＋Ｂ） Ａ 19.0 % Ｂ 70.2 %	成　果：毎朝の登校指導の中で、「声をかけ・目をかけ・気をかける」の３かけを徹底してきた結果、生徒達に挨拶をとおして大切なことを伝えることができた。 課　題：まだ、自ら進んで挨拶をしてくれる生徒が少ないように感じる。また、Ａの割合を全体的に底上げする手立てが必要である。 改善策：生徒会執行部やクラス会長・副会長が、挨拶運動や生徒会企画を運営し、生徒が中心となって、より良い学校にしていけるような仕掛けを行う必要がある。
	②学校行事や課外活動をとおして、多様性を尊重しながら協働できる姿勢を養成する。	【満足度指標】 各種学校行事や体験活動により、良好な人間関係を築き上げるとともに、何事にも主体的に他者理解を通して取り組むことができるようになる。	学校行事を通して、自他を大切にする心を持てるようになれたか Ａ　よく持てるようになった Ｂ　持てるようになった Ｃ　あまり持てない Ｄ　持てない	90.5% （Ａ＋Ｂ） Ａ 23.8 % Ｂ 66.7 %	成　果：本校は少人数であることから、各種学校行事や体験活動等を全員で行うことができる。その中でより良い人間関係を築くことができている。 課　題：少数ではあるが、取組が積極的ではない生徒がいる。また生徒たちが自ら行動し、企画や運営を進めていくまでには至っていない。 改善策：あらゆる場面で生徒が議論を重ね、より良い学校行事や体験活動を行い、さらに地域との連携を深め、地域貢献につながる活動を増やしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・前年度はコロナ禍にあり地域との交流も少なかったが、今年度は地域へのボランティア活動や地域イベントに参加している姿を日常で感じることができた。 ・挨拶はできている方だと思うが、社会に出てから最も大切になるので、より積極的にできるよう更なる指導をしてほしい。 ・多様性を認め協働する姿勢は、これからの社会では大切なことなので、様々な機会をとらえて育成してほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策		・挨拶の重要性について日常より啓発し、生徒の積極性や意欲を引き出していくような仕掛けや取組を具体的に実践する。 ・規範意識、協調性、他を思いやる心や多様性を尊重する姿勢等については、講演会、講話やＬＨ等様々な機会をとらえて育成する。			

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
3 地域との交流・連携を密にし、地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。	①地域資源(自然・人材・団体・企業)や他校種と連携し、地域理解を深め、探究する力を養成する。	【満足度指標】 生徒が課題意識を持って，積極的に地域と関わり，地域への理解を深めている。	課題意識を持って，積極的に地域と関わり，地域への理解を深めることができたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	**79.8%** （A＋B） A 15.5% B 64.3%	成　果：総合的な探究の時間において、地域について調べ学習をするとともに、現地調査をとおして理解を深めることができた。町役場や地域の方に直接聞き取りを行うことで、新たな視点で地域の未来を考える良い機会となった。 課　題：大半の生徒が理解を深めているが、約20%の生徒がうまく理解を深めることができていない。地域とのつながりを幅広く持ち、地域の方に高校生の取組を応援してもらうような仕掛けが必要である。 改善策：連携の取りやすい地域の人材や団体の確保をしていく。学校内に留まらず、町役場や大学などと連携し、外部講師の方を上手く活用していけるようにしたい。
	②地域ボランティア等へ積極的に参加し、地域貢献意識を高め、課題解決力を養成する。	【満足度指標】 生徒がボランティア活動や地域行事に関わり，地域の活性化に貢献していると感じている。	ボランティアや地域行事に関わり，自己の活動に有用感を感じている生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	**58.3%** （A＋B） A 11.9% B 46.4%	成　果：全校あげての清掃ボランティアや地域の祭礼行事等への参加を今年度も継続して行うことができた。穴水町未来づくり会議への参加も、高校生にとっては有意義な時間となった。 課　題：地域ボランティアの機会があまり多くないので、特定の生徒の参加に偏る傾向がみられる。 改善策：部活動ごとに地域ボランティアの活動機会をつくるのもよい。地域に貢献できる活動を生徒自身が生み出せるように、企画・立案の場を設けていきたい。
	③ホームページ等で、教育活動や生徒の様子を積極的に情報発信する。	【満足度指標】 ホームページや学校だより等を通して、適切に学校情報や教育活動の様子が発信されている。	学校情報や教育活動の様子を知ることができる情報発信が，適切になされていると感じている保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	**97.8%** （A＋B） A 66.3% B 31.5%	成　果：中間評価より 2.3%増の 97.8%となり、高い評価を受けることができた。ホームページだけでなく、学校だよりのデジタル配信や、配信内容に生徒の声を反映させたことで評価が上がったと考えられる。 課　題：情報発信は常にアンテナを高くし、誰に何をどのように伝えていくかが大切である。受け手側の声に耳を傾け、常に見直しを図っていきたい。 改善策：若手教員や生徒自らの情報発信も考えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・地域資源を活用して、目立たないが社会貢献につながる職業種やボランティア活動等の講話も取り入れてほしい。 ・ホームページでの情報発信は充実しており、生徒の表情なども分かるため、家でも子供たちと共有することができている。 ・今回の能登半島地震からの復旧・復興をボランティア活動参加へのチャンスととらえ、地域貢献意識を高め問題解決力を身につけるための一助としてほしい。		
評価結果を踏まえた今後の改善策		・地域が求める町の復興に向けたボランティア活動については、何をどのように、どこと連携して行うかを具体的につめていく。 ・引き続き、地域との連携、小学校・中学校との連携を大事にしながら具体的な教育活動を実践していく。			

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。	①授業改善と資質向上に意欲的に取り組むとともに、組織的思考力や組織的行動力を高める。	【努力指標】 年４回の互見授業ウィークを設定し、それぞれ２回以上参観することとし、本校の授業の質向上を図る。	互見授業ウィーク中２回以上参加した職員の延べ割合が、 A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	A （100%）	成　果：各教員の互見授業ウィークに積極的に取り組もうという意識が高まった。また、単に良い点を伝えるだけではなく、改善点なども指摘しあうなど、互見の質そのものも上がっている。 課　題：テーマの設定が一つだけでは、自分の課題に合った視点での互見がしにくい。さらに近隣小中学校の先生方の参加率が低かった。 改善策：テーマを各回で変えるなど柔軟な設定が求められる。また、小中高の連携を意識した取組を企画するなどの工夫が必要である。
		【成果指標】 年間研修計画に即して，研修を実践する。各期の若手が確実に力をつけるとともに若手教員が講師を行う場面を設定する。	校内研修の実施回数（互見授業研究・講師役も含む）が A　25 回以上 B　20 回以上 C　15 回以上 D　15 回未満	B 22 回	成　果：若手教員早期育成プログラム年間指導計画に基づき、計画を進めることができた。特に夏季休業中に行われたオンラインでの研修ビデオ視聴では、選択式にもかかわらず全てに目をとおした教員も多く、意識の高さを感じた。また、講師の管理職、各課主任の先生方には、事前打ち合わせが不十分な中でも、資料の準備から効果的な講話まで、丁寧な対応をしていただき、受講した若手教員には大いに参考となる内容であった。 課　題：研修の回数が伸びなかったのは、能登半島地震の影響もあり３学期にほとんど行えなかったためである。２学期までにもう少し研修を入れておく必要がある。 改善策：３学期に行う予定だった若手教員が講師となって行う研修を夏季休業中に入れる等工夫していく。

石 川 県 立 穴 水 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析（成果と課題）及び次年度の取り扱い（改善策等）
4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。	②業務改善の意識を持ち、効率的・効果的に業務を実践する。	【成果指標】 各種業務の精選や重点化等を意識し、組織として効率よく効果的に業務に取り組んでいる。	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A　5%以上減少した B　3%以上減少した C　1%以上減少した D　減少できなかった	A （12%減少）	成　果：時間外勤務時間が前年度比で 12%減少したのは、１月の能登半島地震による各自の勤務への配慮により、1月の平均時間外勤務が６時間程度になったことによる。しかしながら、12 月段階でも前年度比 4.4%減少ではあった。 課　題：県立高校の月平均時間外勤務が 40 時間程であるのに対して、本校が 12 月時点で月平均時間外勤務が 35 時間程であり、時間外勤務が減少したことによる校務全体の成果について考える段階にある。また、この数値はあくまでも平均時間であり、時間外勤務時間が多い教員と少ない教員との二極化が見られる点が一番の問題点である。 改善策：業務全体が時短しながらも効果的に運営され、部活動等の課外活動が衰退していないかの検証が必要である。また、校務分掌の分担が特定の人に過重になり過ぎていないかの検証も必要である。
	③危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織を構築する。	【努力指標】 想定される危機や生徒問題に備えた対応や対策ができるよう、効果的な校内研修会が行われている。	研修会により，具体的な危機や生徒問題への対応の仕方が把握できたと考える教員の割合が A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	A （100%） A　70.0% B　30.0%	成　果：よく理解できたとしたAが 70%で、だいたい理解できたとするBが 30%である。 今回の震度７の能登半島地震に対しては、道路の寸断や自宅被災が甚大で、職員の初動対応が十分にできなかった。しかし、その後学校が避難所になった際には、防寒対策、トイレの水確保やコロナ感染者への対応など適切な対応をとることができた。 課　題：危機対応は知識や技能もさることながら、不測な危機の状況に対応する意識、具体的な危機へのシミュレーションや実際的訓練の反復が大切である。 改善策：学校管理計画の危機発生時対応マニュアルの読み合わせと、本当にこの内容で想定外が起こりえる災害に対応できるのかという検証が常に必要である。
学校関係者評価委員会の評価		・震災による環境の変化で先生方の負担の増加が心配されるが、引き続き効率的に業務ができるよう改善策を講じてほしい。 ・今回の震災においては、学校が避難所になりながらも柔軟かつ迅速な対応ができたことで、危機対応力の意識の高さを感じた。今回の震災での課題を踏まえて、各機関と連携しながら学校の安全が保たれるようにしてほしい。			
評価結果を踏まえた今後の改善策		・危機管理マニュアルの策定や、校務の効率的・効果的な遂行等について、教員全体での連携と共通理解を図りながら実践する。また、校外各機関との連携をさらに密にして、学校の安全と安心が保たれるように努める。			